乳兒期ニ於ケル所謂脾疳ニ就テ

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38373

二於ケル 所 謂 調牌疳 就 ラ

岡 本 京 太 郞

第一例 别 於テモ他ノ初生兒ニ劣ラナカツタソーデアリマス、生後三週間ハ母乳 日ヨり二十日許り早ク生レタカ併シ十分ニ哺乳シ活潑ニ號位シテ大サ 二者シキ戀動がナク民其量ト硬サチ増シタ許デアルが、 「ハレマシタガ其後ハ全ク米粉汁ノミデ育テ居りマシタ。 ハ山田某ト申ス三ヶ月ノ男兒デ農家ノモノデアリマス、 來所謂牌病症狀ラ有スル乳兒ヲ四例實見致シマシタ、 子供ノ粽子 所力便通 y 豫定

ハ不安トナリマシテ二十日程前カラ持續的ニ中等度ノ熱ト咳嗽が出テ整

蠶)カラ直様半乳チ止メテ前ノ通り米粉汁ノミニ 致シマシタが尙時々一

夕所口"

急ニ熱が出テ大便が青クナツテ、

ソーシテ目チ廻シタ(眼球上

ŋ ŀ 自クナツタト云フコトデス、 汁ラ漸次吞マメ機ニナリマシテ昨今ハ辛シテ四百立方仙迷位シカ取り得 音が嗄嘶シテ滲りマシタ、 ラ患兄ノ両眼外皆が潮紅シテ居マシタが近來右眼瞼カ腫脹シテ其角膜が |膜及角膜ノ「キセロージス」がアリ左眼ハ其上ニ「ケラトマラチー」ニナ マス」患見ハ一見麻瘦シテ顔色 斯フ云フ眺往症デ四拾二年ノ七月二十七日ニ診察ヲ受ケニ來タノデア 標ニナリマシタ、 其他十日以來每晚號泣發作ガアル又熟ノ田々時分力 又始以每日千五百立方们迷平取テ居ツタ米粉 夫レニ尿利ハ稍减少シテ嘔吐ハ一 ハ蒼白、 皮膚ハ浮腫狀ラ呈シテ両眼 回モナイ

> 第二例 Ŀ 村井某ト云フ四 **ケ月ノ女兒デ仕立職人ノ子デアリマ**

デ安静ニ育ツテ居タソーデスが、 **サ與へタ所が、** 三回位遺金色軟膏稠度ノ工合ノヨイノが出テ、 米粉汁ノミデ養ハンテ居マシタが外觀上克ク生長致シマシテ大便モ一 ロージス」モ輕快ニ向ヒマシタが左角膜グクハ潰瘍ニナツテ仕舞マ 、陷没モ腹壁ノ弛緩モ減シマシタ、 二日ノ後二患兄ハ安静トナリマシテ夜泣ハ少クナリ顧門 六月ノ三十日ニ12ノ牛乳チ與 脉ハ强クナリ食思モ住良トナリ 嘔吐モ下痢モアリ 生

В 狣

デ不整デナイ呼吸モ 隆スルニモ拘ラス腹壁ハ弛緩シテ 閉鎖シテ両方トモ結膜角膜ノ乾燥症ヲ有シテ居リマス、 放テ居りマス、 及下脚ニ著明ノ浮腫がアリマシテ願ハ垂頰デ「ペルがメント」様ノ光澤チ **駅がアツタト云フロトデアリマス、私ハ此子疳發作カラ二時間後ニ見** 慾が減ジマシテ嚥下スル際ニ咳が出ル樣ニナリ且ツ無慾狀嗜眠狀ニナツ (2)、心音ハ强クテ稍不純デアリ肺ニハ格別ノ變狀ハアリマセ キクテ硬イ脾臓ハ觸レヌ 腎臓ハ殆 ガーデン」がアリマシテロ内ノ粘膜ハ乾燥シテ居ル、 ノデアリマスガ、 マシタ同僚ノ話デハ熱が三十九度五分アツテ呼吸困難眼球上電ナドノ症 デ七月ノ四日ニ又再ビ子疳發作が起ツタソ―デアリマス、 過性ニ熱ガ出タリ大便が膏クナツタリスルノミナラズ、 ハ稍 derb ニ觸レル膝蓋腱反躰ハ通常デアリマス、 之二反シテ軀幹ハ著の羸痩シマシテ眼 息兄ノ皮膚ハ蒼白デ稍朽葉黃色チ帶テ居ル、 亦整然トシテ二十七ヲ算ヘマシ ント 普通ノ大サノ様ニ teigig ニ感シマス、 Z, 腹部ハ中等度ニ膨 ハ醒覺時ニ於テモ 脉搏ハ百三十八 肝臓の比較的大 両口角ニハ 夫カラ子供ノ食 熱ハ更ニアリマ 思ハレマ 其時診察致 額面前 四 ラ

原著及實驗

依テ来粉汁チ止メテ「コンデンスミルク」ニ代へマシテ肝油ヤ「カンフル」

」ハ脳性デアル、體重ハ三千五百三十五シカアリ

・セヌム

t

X,

聲音ハ低クナツテ居ルカ眞ノ腹嘶ハアリ

t

×

其他

嘔

圧モナク

吸音ノ粗裂ト僅ノ質壁ガアル

他

ニハ異常チ認メヌ、

心音

ハ高調デ清 デ蛋白及糖

有形淡黄デ酸性サ呈シテ居り、

尿

ハ薬黄透明酸性

有スル紅斑ガアル。

稍小サクテ硬ク牌騰ハ觸レマセナンダ、臀部及大腿ノ内側ニ上皮屑片

腹壁ハ甚タ弛酸シテ腸暗系ハ觸レ易イ、

腺デハ只鼠蹊腺が僅ニ腫脹スル

バカリデ肺ニハ呼

、テ居ル、大顔門ハ少シク隔凹シテ頓ハ垂頼ノ形チナシ口粘膜ハ乾燥

イカ「インヂカン

テ舌ハ自苔サ帯ビテ居

が現 テ七月十五日ニ呼吸困 ナリマシタが右角膜ハ叉送ニ雲疸ニ陷リマシタ、 熱が下りマシテ九日ニハ食思カ住良脉モ强實トナツテ百二十至ヲ算ヘア 又診察致シマシタカ、某時ハ熱が三十九度デ口内ニハ鵞口瘡がアリ左角 卵圓形ノ上皮、 蛋白ハエスパーハ氏法ニテーショナ含ンテ居マス、 酸性デアリマスが四時間ノ後ニハ旣ニ强度ノ亞爾加里性 多數ノグラム陰性菌力見ヘマス、尿ハ藁黄色デ蓍シ混溷シテ居マ 變シマス鏡檢上ニハ多數ノ澱紛粒片、鷲口瘡樣菌、 シテ置キマシタ、 シマシテ、質芰浸、「サロール」 シマシタ所が、 ノデアリマスガ、 ハ左程悪クナツタ様ニモ見ヘマセナング が試ニ米粉汁 チ 、体温ハ三十六度八分デ腹部ノ驰緩モ浮腫モ减シマ 母ノ希望二從テ矢張米粉汁ノミニシテ置キマシタ、 ハ 壞疽ニ 陷テ右角膜を軟化チ始メテ居りマス、 ニハ多數ノ膿球、 顆粒ハアリマセヌカ澱粉反應が著明デアル、 アノ ハレマシテ十二日ニハ両方ノ虹彩脱出チ來シマシ ソコデ乳見脾疳或ハ Reisnährschaden 迷チ與フル 酢剝 其際尿ヤ大便チ檢スルコト ぜ」も見へマセ 谷内某ト申ス六ケ月ノ男兒デ正規 硝子圓柱、 糞ハ帶褐黄色濃粥狀デ酸性デ、 「カンスル」等チ與ヘマシテ、 母乳不足ノ爲メ始メ三週間ハ「コンデンスミルク」チ足 一十二 其後三日目ニ母が大小便ヲ持テ參リマシタカラ檢査致 「スタヒルコツケン」 致シマシタ。 × 及顆粒圓柱がアリマシタ夫カラ七日ノ午後 脉搏糾弱ト 淋巴腺 肝油ナドチ投シマシタ、 が出來マ ノ腫起シタ ・ナツテ 所が全身狀態が一 「ストレプトコツケン」、 樂養 t 遂二死亡致 ノ時日ヲ經テ健康ニ生 兼膀胱肾孟腎炎下診斷致 氣中ニ放置スレハ緑色ニ ソーシテ糞臭が少イ粘液 スデシ ÷ 両腎共ニ増大シテ居マ バハヤ 而ソ十日カラ又少ク熱 , 糖ハアリマセヌ 圓形細胞、植物細 シテ精神モ稍透明 , >> タカラ、 所力七月八日ニハ ・ハリ ノ外ニ毎日牛乳百 タカラ同僚ト謀 シマシタ、 唇思クナリ ツモ觸レ トナリマシタ ソーシテ榮養 米粉汁ノミ 全身狀態 ス ~ 鏡檢 僅 t 胞

リマシタ 較的大デ顯門ハ陷沒シテ居ナイ、 速コ無クナツテ仕舞マシタカ生長ガドーモ思ハシク行カナイ所カラ、 常物チ認メマセヌ、 算へテ整旦ツ實デアル、 ゼ」等ハアリマセヌ、呼吸ハ促迫シテ居ナイ、 及耳後ノ水脉腺ハ豌豆大ニ腫大シテ居マシタ、其他聲音瓊嘶、「チ デ境界ニ變常ハナイ、肺ニハ所々「ギーメン」ヲ聽ク許デアリマス、 脾臟ハ僅ニ觸ル・コトガ出來、 ル、肝臓ノ下縁 アリマシテ、 云フノデ、七月二十九日ニ診療チ乞フタノデアリマス、 米煎汁ハ前ノ通ニヤツテ居タノデアリマスト 月五日ニ到り再と彼ノ「コンデンスミルク」サ牛乳ニ代ヘテ見マシタ勿論 米煎汁ニー 一日四回位水標便チ出シ哺乳量ハ減少セヌニモ拘ラス経羸痩シテ來ルト **サ以テシテモ尙下痢ヲ招キマシタ故再ヒ前ノ如ク米煎汁ト「コンデンス** ヘマシテ、 ・テ居 ルク」ラ以テ養フコトニ致シマシタ、 トコロガ ス、六月ノ中頃ニ「コンデスミルク」ノ代リニ米煎汁ニ牛乳チ 度モナカツタ様ニ中シテ居マシタ」。其時ノ狀態ハ比較的矮小ナ兒デ 夫デ以テ他ノ健康見ヨリ劣テハ居タが併シ次第二發育スル樣二見 波ハアリマセス、 タソ セナンダ、 大便へ鮮黃濃粥狀デ酸性チ呈シ酪酸臭チ帶ビテ居ル ノーデ 特ニ大便ノ都合がヨクー 茶ピノ「コンデンスミルク」チ加へテ養フロトニシ 直ニ强度ノ下痢チ來シマシテ一日僅カ百立方仙迷位ノ少 皮下脂肪ハ中等度ニ存シテ皮膚ハ着ク乾燥でス、 ハ乳線ニ於テ助骨弓下一指半徑ニ位シテ質ハ霉常デアル、 ス 力**"** 此際獲帶シテ居タ常用ノ米煎汁ハ普通ノ「ウロメー 尿ハ水様弱酸性デ蛋白、 三週後二母乳全ク出ナクナツタ故一 澱粉反應ハ著明デアルカ鏡檢上ニハ差シタル異 體温ハ三十七度六分體重ハ五千百七十五五デア **腸蹄系ハ常態デアリマス心音ハ清ク高調** 腹部ハ中等大ニ膨隆シテ稍弛緩シテ居 日一回位軟膏稠度ノモノカ出 夫デ彼ノ下利ナドノ消化變狀 所が今度モ矢張下痢が起テ 糖弁ニアセト 胁 ハ醒覺時百三十八至サ 但シ嘔吐ヤ發熱 二百立方仙 | 反應ナド 平等ニ同 頭部へ比 加へテ見 アノー タソー 迷り 七

ý

タガ 丽

ルニ二十六日ノ朝突然眼球上窟、

四肢弛緩ナドノ腦的現象チ呈シマ

デアリマシタ、二十九日ニモ嘔吐下痢ハ矢張同様デアツテ其上

大便排出ト共二直ク緩解致シタソーデアリマス、嘔吐下痢ハ尚

聖尹與 漸次増加スル標ニ命 ルニ同年九月二十三日ニ再ヒ其兄ヲ連レテ繆リマシテ申シマ ノ外ハ異狀ノナイ標ニ見ヘマシタノデ休薬致シマシ ニハ既ニ體重五千三百二十五五二上り八月七日ニ至り體格ノ矮小尹除 其比重き計 iv シテ置キマシタカ、 ノ濃度チ蓍シク稀薄ニシ「コン コ **卜診斷致** ŀ カ出來ヌホ シマ ジテ、 ド甚タ濃厚ナモノデアリ 次第二輕快致シマシテ八月ノ三 薬剤ト シテ デン ハ單ニ稀墭酸百 ズミ 7 、スニ ₹⁄ 依

其後ハ南ニ健康デアリマシテ同ク米煎汁、

「コンデンスミルク」(一日

が始りマシテ特ニ米粉汁ラ取ルト直クニ吐キマス、

叉大億モ帶

白綠

前

ヨリ 夫ヤ是ヤ

嘔 H.

シテ粘液チ混シ一日五六回モ出ル様ニナリマシタ、

デ 患見ノ發育ハ充分デハナカツタノデアリマス、所が二十日

含マシテ居リマシテ大便ハ常ニ下痢ノ傾キニナツテ居マシタ、

故一日三回位濃厚ナ米粉汁ヲ與

へテ居マシタ、

其他ニ生來「胎毒下シ

位迄ハ母乳デ養ハレ

シテ居

マシタガ其後母乳ノ分泌ガ不充分ニナリマ

シタ

人ハ冑腸障害デ死亡シ一人ハ健存スルソーデアリマス、

、タコトハアリマセヌ、患兄ノ兄弟 某ト申ス八ケ月ノ女兒デ農婦ノ子デアリ

ハ二人アリマ

~

母

患兄ハ生後

デ流早産チャ

例

腹痛 ナリマ

チ件フ様

大模様

ハナイト云フコトデス、

聲音

1八眞

二順嘶

シテハ居る

但シ排便時

7

シテ四

が餘程低クナツテ來テ且ツ少シク咳嗽モ出テ參リマシタ、

厥冷シテ十日以來嗜眠狀チ呈シマシテ醒覺スレ

ハ呻吟ス

ルト云フ様ナ

マシタ、叉八日以前カラ母が此見ノ両角膜ノ白クナツテ居ル

其他尿利ナドニハ變狀ガナカツタト斯

但シ

胎

嘔吐 ナリ 民間襲ヲ與ヘマシタ、 量五茶七) 三十七度七分ラテシテ居マシタカラ「サロール」硝着ナドラ加ヘマシ 皮下膿瘍が二三個現ハレマシタ故胎毒ト考 一翌二十四日ニ尙下痢便ガ四回アツテ ヤ叉 ハ「コンデンスミルク」ノ量サへ増サチハ起ラス、 マシタト訴へテ K シ」チ與フルコトチ禁シマシテ稀擅酸、 八聲音順嘶中眼脂、 **榮養ノ下ニ** 來タノデアリマス、 所が下痢始りマシテ一日五回 漸次發育シテ居リマ 腹滿等ノ症狀カナイト云フテ居マス、 氣分が悪ク 個シ其外ニハ格別ノ變狀ガナ シタガ ヘテ所謂 百布聖ナドチ投シマシ 嘔吐が モ液狀便チ漏ス様 数日前頭部ニ大ナ 胎毒下シ」ナル 尿利ハ通常デ熱ヤ 加 ハリ 體温が 依 或

狀態 ニナリ

心摶動 併シ打診上右室ノ擴張 りマス。 頭尹左右ニ振テ居マ デアリマ 浮腫がアリマシダ、 小サキ婆縮兒デアリ シテ肝臓ノ下綠ハ右ノ乳線デ肋骨弓下二指横經 ハ鬱病以來一タビモ與ヘナカツタソ シタ、牌鵬ハ觸レマセヌガ脇 両眼ニハ高度ノ結膜及角膜蛇燥症ガアリ 般ニ强イ様テアリマ 顧門 ス マシテ嗜眠状態チ呈シテ居りマスガ醒覺スレ 尹證明ス 皮膚ハ乾燥シテ居マセヌカ下脚ト背部ニ ハ著り脳没シマシテ順ハ垂 ルコトが出來 スが特ニ肺動脉 ノ蹄系ハ攣縮ノ狀態ヲ呈 ーデアリマス」、現症 マセナンダ、 ノ第二音ノ亢進が著イ、 ノ所 マシテ腹部ハ甚タ弛緩 頻ノ狀態ヲ呈シテ居 肺二 質ハ尋常ノ様 ーシテ居 ハ比較的 グ軽 ハ不絶

フ云フ様ナ既往症デ八月ノ五日ニ診チ乞フタノデアリマス、

氣が付キマシーソーデス。

シタガ ハ厥冷シテ翌三十日 脉 ハ之ニ平行セスシ レアチ ノ午後遂ニ死亡致シタノデアリマス チ加 テ比較的緩徐デ ヘテ見マ ₹ \$ ノアリ ガ シタ故ニ、 次第ニ嗜眠状 前

アリ

Z,

臀部

ハ「エリテマトエス」ニナツテ居テ頸部

及疑踪

ri IS

ハ少ク减退

シテ 居

ス

四肢

ノ筋ニ

ハ

iV

腹部

ハ少り膨

シテ甚シク引緩

ジシテ居

ル體温

ハ三十八度八分ニ

上り

両眼結膜ニーキセ

ローツ

ズ

ノ存在スルコトチ氣付イタノデ

アリマ 此日始

聲音嘎嘶、

睡眠不安ナドノ症狀が

加

ハツテ繆リマシタ、

二尙

前

陷沒 蛋白ハ痕跡ニ存在シマスガ 方が多イ、尿ハ水様デ少ク灰白色ノ混濁ラ有シマシテ酸性ラ呈 紛反應ハ陰性デ鏡檢上多數ノ脂肪球チ認メマス細菌ハ「グラム 狀デ酸性ヲ呈シ膩脂標デアリマス、 體溫ハ三十七度デ體重ハ僅ニ二千七百五シカアリマセヌ、 〇八至テ正調デアリマ Reisnährschaden Ł ル」デ其比重チ計 テ弓下三指横經 力食思ハ住良ニナリマシタ、 . 月八日ニ熱ハ下リ氣嫌モ少シ良クナリ八月十日ニハ下痢ハ倫同標デア ₹ チ投シ尚生理的食鹽水五十五ノ皮下注入チ行ヒマシタ、 ヌ ~ シタ、 下肢ノ浮腫 ハ透明ニナり始メ始メマシタ、 ハ少り減シ角膜ハ少り光澤ヲ現 9 ヘテ居タトコロノ米粉汁ハ非常ニ濃厚ナモノデ普通ノ「ウロメー 吐モ少クナリマ ラ振 シテ興 鏡檢上二ハ唯タ精液球ト僅カノ上皮ヲ認ムルノミデアリ ~ 眼ノ「キセロージ シタ「ツベルクリン」皮膚反應ハ陰性デ尿中ニ「アセトン」ハ證明 · 少 母乳ノ脂肪量ハマルシャン氏法ニテニ、五六三%アリ ルコトガ止ミマシテ七日カラ八日ニ懸ケテ大便が四回嘔吐 シテ居マ 其夜ハ安眠致シマシテ八月十一日ニハ眼乾燥症 ヘルコトニ 達 ハ全の無クナリマ 睡眠中脉の百三十至呼吸の四十二ヵ算ハマス、 或 ルコトが出來又程デアリマシタ」、ソコデ所謂脾疳或 ス シタが時々號泣發作がアツテ睡眠ハ不安デアル、 シテ居マス、 \[
\text{Fettdiarrhoe}
\] ス 一致シ、 「チアノ ス」ハ益々良クナツテ肺動脉第二音ノ强盛モ 糖胆色素 呼吸モ亦正調デ睡眠中三十六ヲ算 **倫輕キ嘔吐がアリマスが脉ハ百二十至**デ 藥劑トシテハ肝油硝蒼「タンナルビン」ナ イシタ 八月十四日ニ睡 ビーハ更ニアリ 酪酸臭チ帶ヒテ粘液チ混 此日前薬劑ニ尚「パンクレアチン」ま ハシマシテ腹壁ノ弛緩モ 及ヒ「インヂカン」 反應ハ アリ **卜診斷致** ソーシテ肝臓ノ下縁 シマシテ 脈中 マセヌ、 脉轉百二十 米粉汁ハ餘程 然ルニ翌日 大便ハ遺色液 脉 稍减 心少少 ハヘマシ ハ餘程良 シテ居ル澱 シテ居 睡 額門ノ -呼吸三 /ク下リ シテ黎 腿中百 g 减 4.

シタ點ハアリ セ ヌ 越幾斯 眠致 出來 五分、 ノチ出 少ク進三叶嘔下痢ハ減シ號泣發作モ少クナリマシタガ全身狀態 セヌデシタカラ。 乳ノミニ 飲ミマセヌシ且ツ食思碱退シテ母乳丈ケデ十分ノ檬ニ見へマシタカラ母 此日米粉汁サ止メテ「コンデンスミルク」二代ヘテ見マシタカ少シモ之チ タ、臀部ノ潮紅モ又廣クナリ便ハ矢張液狀デ多數ノ脂肪球ラ有シテ居マ ハ著シク砒緩シテ ハアリ 五二减シ到底絶望ノ狀態ヲ呈 其時ノ狀態ハ大抵前ト同樣デアリマスが皮膚ハ熱灼シテ體溫ガ三十八度 ノ實見ショノ ノ下綠ハ腸骨櫛二迄達シテ居マシタ、 連レテ瑩リマシテ、 一八百四 ・ジス」ヲ現ハシテ「ケラトマラチー」が始マラント ナリマ 八月十七日ニハ睡眠中ノ脉搏百〇八至デ再七嘔吐カ現ハレマシタ、 乳ハナイが吐動カアル、 口粘膜ニ多數ノ「ゾール」斑が出來マシテ眼ハ再ヒ高度ノ「キセ ~ 7 t シ口内ニ白班チ生シ一昨日 八月二十三日二或ル事故ノ爲メ退院致シマシタガ九月五日二又再 ・セヌ 蓚酸「セリ 致シマシ ナン シテ流涙及膿様ノ眼皆カアル、 セヌガ下痢ハ倫持續シテ居マス、號泣發作モ同標デ矢張夜間 十デ正調デハアル 7 ダ スカ引ク ハ先ツザ 併 處方カラ硝蒼「タン 此 × 肝臓ノ下縁ハ臍ノ地平迄達シ シ「キセロージス」ハ全ク無クナツテ仕舞マシタ、 ユム」ナドチ投シマシタ、 H 其後母乳ノミデ養フテ居タニ拘ラス両眼が 八月十九日ニ號泣發作及下痢ハ依然トシテ變リマ ノ体重 ツト斯様ナ病狀ヲ呈シテ居タノデ、 ルメテ申シ が甚タ弱イ呼吸ハ三十體重ハ二千二百六十五 /二千四百瓦、 大便ハ日ニニ回デ時ト シテ居りマシタ、其後ノ經過ハ分りマセヌ マスレハ ヨリ嗜眠状態ニ脳ツタト申シマシタ、 ナルビン」チ去り「サロール 肺ニハ更ニ變狀カナイ睡眠中ノ脉 加フルニ数日來夜間發熱シテ鼠 八月二十二日ニ至り食思が 八月十六日二 年齢ハ三ケ月カラ八ケ月ノ 其硬度モ シテ居リマス、 シテ帶白粘液様ノモ 硬クナリマシ 各多少ノ相違 最 早ヤ ハ變リマ 、再七白 嘔

Ŀ

肿

乳兒デ

榮養ハ主トシテ米粉汁デ、

發病時季ハ六月カラ九月ノ夏季デアリ

私

捙

アリ 作 7 變ガアリマセヌ、 腫 皆著明デ氣分ハ不機嫌或ハ嗜眠、 ス シテ肝臓ハ質硬クナリ、 コナク、 ノ有 或ハ子發作指ヲ來シマス、 シテ両眼ニハ「キセロージス」及角膜軟化テ現ハシ、 或ハ 嘎嘶致シマシテ 又輕咳ラ 有シテ居ス、 モノカアリマス。 、スが、 又四肢ノ筋ノ硬ク觸ルトモノガアリマス、脉搏呼吸ニハ一定ノ變 體溫モ合併症ノナキモノニハ普通デアリマシテ、 Ŧ ブモ 於キマシテハ食思が皆藏退シテ、 普通ハ透明酸性デ蛋白、 無イモノモアリマス、尿利ノ減少スルモノガアル、羸痩ハ 膝蓋腱反射ノ稍感スルモノガアレモ又通常ナルコ 尿ハ合併セル腎臓炎ノ爲メニ蛋白ラ有スル **| 脚臓ハ不爾。** 大便ハ硬軟不定ナ多ク酸性デ澱粉反應サ呈 無慾狀ニナツテ居ル、聲音ハ低クナ 糖 心音ハ多ク高調トナツテ肺ニハ著 「アセトン」がナイ、 便通ハ多ク下痢ニ傾キ、 顏貌ハ潜白皮膚ハ多ク浮 腹部ハ膨隆弛緩 多クハ號泣發 但シ「イ コトモ 1 嘔

扨テ是ニ依テ見マスレハ、 カラ米粉行チ廢シテ乳汁樂養ニ代フルノカ甚々容易デハアリマセヌ貝彼 分死ンダモノダロ―ト考ヘマス、療法トシテ米粉汁ヲ廢スルノガ合理的 有スル「キセロージス」二對シテ肝油力容効チ奏スル , # 第四例 不幸ノ轉歸チ取ルコトガアル、 ヨーデアリマスが、 ıν ザカン」反應ノ陽性ノモノガアリマシタ、 マシテ、夫カ爲メニ下痢、 モノガアル、豫後ハ甚々險惡デ四例中二例ヲ失ヒ、 ノ如ク脂肪下痢ガアリマシテ病機ノ鎮静セヌモノモアリマス 斯フ云フ様ナ工合ナノデアリマス、 病歴デ見ラル、如り本病見ハ牛乳ニ對シテ過敏デ 此四例ハ皆主トシテ含水、 發熱ラ來シ時トシテハ為二腦症ヲ誘發シ 又米粉汁ラ慶シテ母乳ノミニ致シマシ 合併症トシテ腎盂腎炎サ有 炭素栄養兒デアリ ٦ ١ 倘他ノ一例モ多 ハ疑アリマ

ノ官能

精神,

神經ノ状態ニ於テモ其間ニ非常ノ相違がアリマスカラ、

故二私ハ本症例ノ如キハ

其他種々ノ要約仮令ハ腸

内ノ酸菌

篵

乃至

全身抗抵力ヤ反應力ニ於テモ

養品ノ形態二於テモ種類二於テモ消化管ノ構造二於テモ官能二於テモ

痩、 デアリマシテ、 只今申上ケマシタ症例トハ特ニ膝整腱反射及肝臓ノ胀態、 眼乾燥症、 後ノ小兒ニ來ル脾疳ノ重ナル症狀ハ、食慾及嗜好ノ變化、 乳期後ノ牌府ト一致スルヤ否ヤチ精綱ニ比較シマスレハ相違ノ點が中々 テ差支がナカロート考へマス、 見二於テ症狀經過二差違チ來スコトハ寧ロ必然ノコト、考へマス。 中欒叢ト關係アル疾病ノ多クハ年齢ニ依テ其形態ヲ變スルハ殆ント喪通 サル現象デアリマシテ、結核 大人トノ間ニ於テ、 知ノ如ク確ニ同一ノ疾病デアリマシテモ年齢ニ依テ則チ乳兄ト長兒若クハ 聲音及心音ノ模豪、 答兒、脉搏呼吸ノ遲徐、尿ノ「インギカン」增加、大便ノ酸性、 イノデアリマス、 コトデアリマスカラ、 遊戯不活潑、 夜盲、 腹壁ノ弛緩、 皮膚乾燥 私が本年ノ内科學會總會二於テ報告致シマシタ斷乳則 其症状經過二甚シキ徑庭テ有スルコトハ决シテ稀ナラ 其他像後ノ關係ニ於テ相違シテ居リマス。 此牌府ノ如キ樂藝下密接ノ關係アルモノハ乳兒ト長 浮腫、 ノ如キ模毒ノ如キ比や皆然リデアリマス、 胃ノアトニー」 ケレ氏是が 筋「トーヌス」減退、 其症狀經過二於テ果 肝ノ萎縮 膝蓋腱反射减退、 下痢、 慢性氣管支 然上的 澱粉反應 シテ彼ノ斷 煩渴、 則チ榮 御存 就

以

嗄嘶、 アリマス、 テ少ク非ナルモノデ、 ケレドモ弦ニーツ類似ノ疾病ガアル。 心音高調、 私ノ調査ニョリマスト、其主ナル症狀ハ食思減損、 嗜眠 則チ此 大便 顔 ノ澱粉反應、 迎着白、 「ライスチールシヤデン」ハ米粉榮養ノ乳兒ニ起ル病機 私力假リニ 「チアノーゼ」 尿 無強白、 Reisnährschaden ト名ケテ居ルモノデ 則チ西洋ノ Mehlnährschaden "画绘 無熱、 眼乾燥症、 暗泣發作等デアリマシテ 嘔吐 腹部影隆弛緩。

之チ乳兒脾府ト見做スモ不當デハナカロート信シマス、

テ病機ニモ各種ノ變態ラ生シ得ルノデアリマス、

1 マラチー

云フ特異ノ點ガアリ

7 、スカラ 、シテ、

]サ有シテ居り

其眼症ハ肝油ニョリテ軽快若クハ 之ヲ所謂乳見ノ脾疳ト名ケマ

セロージスし

夏季二酸病シテ全身繁養障害三因スル

(原著及實驗

例ノ如き、

何方へデモ編入シ得ル所ノ中間物ラ研究スルノが両者ノ異同及

丁度彼ノ「ラヒチス」ト「オス

本態チ推測スルニ必要デアロート考へマス、

私ノ只今乳兒脾府トシテ述ベマシタ病例ハ、 「ライスチールシャデン」ト申スモノニ酷似シテ居ルノデ、 、關係モ殆ント同一デアリマスカラ之チ又「ライスチールシャデン」ト診斷 子ハナラヌコトニナリマス、 扨テ一方ニハ乳兒脾疳ト診斷シナガラ一方 所謂長見ノ脾疳 其他經過及豫後 9 、八寧ロ

抄

銯

デアリマシテ、 如 ハアラヌカ更ニ分ラヌノデアリマス、 へマズが、私ハ是チ大變與味ノアルコト、考へルノデアリマス、 「ク彼ノ脾疳ヤ「ライスチールシャデン」ハ何レモ其本態が未タ明デナイノ ハーライスチールシャデン」デアルト云フノハ甚タ曖昧不可思議ノ様ニ聞 此両者へ果シテ異種症ノモノデアルカ或い同種病ノモノデ 故ニ私力今乳兒脾府ト題シマシタ病 御存知ノ

方牌作ニ相違ナク又一方「ライスチールシャデン」ニモ相違ナイトスレハ、 、ノト同様デアリマス、夫デ私が今所謂乳兒牌疳ト名ケマシタモノハ、 オマラチー」ノ異同チ研究スルニ所謂修行型ナルモノガ重要ナ≫考トナ

約ヲ異ニスルガ爲メニ症狀經過ノ差異ヲ來スノデハアルマイカト斯ク考へ チ長兒A『ライスチ―ルシヤデン』トモ名ケ得ルモノデアロ―、貝種々ノ要 「ライスネールシャデン」ト脾疳トハ同一病種デアツテ叉甲ヲ乳兒ノ脾疳乙 コトが出來マス、 例合ハ脾疳ナルモノハ「ライスチールシヤデン」ノ上ニ

NE

録

組織 染色液中ニ含マレ タル 酒 精

意義 シニ就テ

(中外醫事新報第七二〇號

著者ハ曹通染色液中ニ存スル「アルコホール」が實際上如何 ノ意 義サ有スル

波

多 腰

正

雄

(一)「ヘマトキシリン」(或ハ「ヘマテン」)ヲ使用スルトキハ、 ヤチ檢センガタメ種々ノ試験チ企テタルが其概要左ノ如 レニー定ノ酒精チ加味スペシ、コレニョリテ過染チ防禦シ得 水溶液ヨリ ルト同時

"ツヱロイドイン」ノ染色テ殆ンド全ク防止スルコトヲ得ベシ

⇉

「ツエロイドイン」の明白ニ染色セラレ 液チ 單二 水サ以テ 稀釋スト雖モ コレチ期待スペカラズ、コノ塲合ト雖 (■)加味スペキ酒精ノ適當量ハ四〇乃至五〇%ノ間ニ在リ、 (11)同上ノ作用ハ例ヘバデラフイルド氏及ビハンゼン氏「ヘマトキシリン」 從テ全染色結果鮮明ノ度チ鉄ク 六〇%以上ノ

用ノ漸進的秩序的ニシテ、 用チ一定ノ組織或ハ構成分ニ限局セシムルカ。 モノハ結果ノ見ルベキ無 スルカ、 (四)某ノ色素が水溶液トすり得ルニモ拘ラズ、 或ハ强キ酒精溶液トシテ使用セラルト 過染チ防止スルカノ點ニ於テソノ一意義ヲ求

(即チ孤立染色)或ハ染色作

コトハ

コレニ由リ染色作

コレニー定量ノ酒精チ加

t

ン」ノ基礎ノ上ニ立ツモノテ、

トノ作用カ参加スルモノデ

ハアルマイカト想像シテ居ルノテアリマスの

特二本病ノ夏季ニ多キハ之ニ酸酵菌ナ

ラレヌコトハナイ

年齢ノ差異、

輕重ノ度合ニヨリテ變形シタモノデアルトモ説明シ得 勿論之チ確ニ解决スルニハ將來多クノ研究チ要シマス

或ハ又脾がハ「ライスネールシヤデ

今日ノ處ニテハ私ハ乳兒ノ牌府モ長兒ノ牌府モ同ク「ライスチール

シタモノトモ想像シ得ルデアローシ、

種

|ノ醱酵菌ナドノ作用が加ハリテ或ル毒物チ生成シ其毒物が病機ニ参加